

まだまだ寒い日が続きます。雪景色もきれいですが、そろそろ色彩豊かな世界が恋しくなってきましたね。そんな季節に華やかさと温もりを運んでくれるのが「梅村マルティナ気仙沼FSアトリエKFS」の毛糸。真っ直ぐ編むだけで、日本の四季や気仙沼の彩いろどが浮かび上がる、魔法のような毛糸なのです。

一目、一目  
しあわせな時間を  
つなぐ、やさしい毛糸

梅村マルティナ  
気仙沼FSアトリエ  
【宮城県気仙沼市】



①



③



②

「ドイツでは小学校に入ると編み物を習います。最初に編むのは靴下。私は編めることがうれしくて、家族全員分の靴下を編みました」と話すのは、「梅村マルティナ気仙沼FSアトリエ」の代表、梅村マルティナさんです。成長したマルティナさんは医学の道へと進み、1987年、研究のために来日。日本で結婚しお子さんも誕生。仕事や家事、育児が忙しく編み物から遠ざかっていましたが、ドイツへの里帰りをきっかけに編み物への情熱が復活します。

「母が『近所の工場で面白い毛糸を作っている』と見せてくれたのがTUTTO社のカラフルなOpal毛糸。とても気に入って、帰る度にまとめ買いをしていました」。編む楽しさを思い出したマルティナさんは次々に編み物を作り、周囲の人たちにプレゼントし喜ばれていました。

「日本の人はみんな律儀でお願いをしてくれるの。だから気を遣わなくていいように値段を付けて、集まったお金は寄付することにしました」。

当時、京都に住んでいたマルティナさん。遠く離れた気仙沼



⑥



④



⑤



⑨



⑦



⑧

とつながるきっかけとなったのが東日本大震災でした。

「食料や衣服が足りない時に毛糸は受け入れられないか」と思いましたが、私は辛い時に編み物をするだけでも心が落ち着く。避難している人の中にも私と同じ人がいるかもしれないと思って、TUTTO社に協力してもらい毛糸と編み針を送りました。断られることもある中、小原木中学校避難所の女性から「すごく嬉しい。また送って欲しい」との声。「それを聞いたら会いたくなって。主人も『家族で行こう』と言ってくれたので毛糸を持って会いに行きました」。

マルティナさんの笑顔、一緒に編み針を動かす時間がどれだけみなさんを励ましたことでしょうか。以来、毎月気仙沼へ通い、2012年には毛糸とニットのお店「梅村マルティナ気仙沼FSアトリエ」を設立。気仙沼駅前ショップには「気仙沼カラーシリーズ」などKFSオリジナルの毛糸やニットがいっぱい。どれもマルティナさんの笑顔のように、編む人、着る人にそっと寄り添い包み込むような、そんな不思議な力にあふれています。

- ①毛糸自体がデザインされているので、真っ直ぐ編むだけでこんなふうにかわいらしい模様になります。
- ②これは「梅村マルティナの腹巻帽子」。筒状にまっすぐ編むだけで、帽子にもネックウォーマーや腹巻にもなるユニークなニット。
- ③気仙沼の海や森をイメージしたオリジナル「気仙沼カラーシリーズ」の毛糸。他に「鮭」や「桜」「祭」カラーもあります。
- ④気仙沼駅前ショップに並んだ美しい毛糸たち。Webショップでも購入できます。
- ⑤「息子たちは編み物していると私が穏やかになると知っていて、叱るとそっと私に編みかけの毛糸を持ってきます」とマルティナさん。
- ⑥8本の足を持つタコは幸せをつかむという縁起物。「小原木タコちゃん」は、避難所で編み物ができない人にも作れるよう考えられました。
- ⑦編み針には針ホルダーのミニタコちゃんが付いています。
- ⑧マルティナさんが話しながら編んでいた「腹巻帽子」。
- ⑨落ち着いた色合いのベストも素敵ですね。持っていたのはスタッフの渡邊美千代さん。
- ⑩KFSの毛糸を広めるため全国を飛び回っているマルティナさん。毛糸を買いに来て、タイミングよく会えたお客さまはとても嬉しそうでした。
- ⑪「K」は気仙沼、「FS」はドイツ語のFriedens-socken(平和の靴下)の頭文字からとったもの。
- ⑫10gのミニ毛糸玉10色をたまごパックに詰めた「気仙沼たまご」。
- ⑬気仙沼駅前ショップのマスコット人形、ゼブラの「オスカークン」。気仙沼カラーのネックウォーマーがおしゃれ!



⑬



⑫



⑪



⑩



KFS気仙沼駅前ショップ  
気仙沼市古町3-2-41  
TEL.0226-25-9321  
<http://kfsatelier.co.jp/>  
\*KFSの通信販売  
<http://kfsamimono.com>